■令和８年度施策評価及び外部点検シート（第２次糸島市長期総合計画施策評価一覧表）
重点課題：子育て・教育環境の充実　　施策：“社会とつながる”子育て応援プロジェクト

【施策評価】

通し番号	施策統括課	施策統括部	関係課	R7事業数	R7決算額（千円）	指標NO	施策に関する目標達成指標	単位	現状（R1）	R7実績	R7目標	年度達成率	計画期間達成率	平均達成率	施策の達成度	【施策の総括】 前期基本計画における施策の総括として、以下を記載してください ①取組の成果、②達成状況の分析、③後期基本計画に向けた取組の方向性
59	子ども課	子ども教育部	子ども課、学校教育課、生涯学習課	2	13,732	161	安心して子どもを生み育てられる環境が整っていると思う市民の割合（市民満足度調査）【再掲】	%	41.0	26.8	45.0	59.6%	0.0%	50.0%	C	①取組の成果 大学や地域人材との連携を通じた「斜めの関係（異世代交流）」を構築を目指し、多様な大人や学生と関わる体験型プログラムを体系的に実施した結果、子どもたちの主体性や社会への関心を高める環境を提供できた。これらにより、子どもが地域社会の一員として、身近な大人から学び成長する「社会とつながる」基盤が着実に形成されている。 ②達成状況の分析 取組事業においては成果をあげており、他にも様々な子育て支援策に取り組んでいるが、指標161（市民満足度）については、昨年度比で微増したものの目標値には至っておらず、全体の達成度が『C』評価となった。この要因として、個別の事業は機能しているものの、その成果が市民全体の「安心感」という指標に直結していない点が挙げられる。また、年齢・対象別の回答傾向から、施策の認知不足が課題であると分析する。「必要な人に届く」個別支援の仕組みは構築できたが、それを広く市民に浸透させ、施策の価値を実感してもらうための周知を行う必要がある。 ③後期基本計画に向けた取組の方向性 今後は、地域の実情に合わせた放課後子ども広場を実施する校区の増加や協定締結大学等による教育的支援の継続・拡充など、学校、家庭、地域、大学が連携し、子どもたちが日常的に多様な大人や学生とつながる仕組みを強化する。また、事業成果や体験の様子を保護者や地域住民に対し「見える化」して発信することで、個々の家庭における満足度を高めるとともに、地域全体で子どもの成長を見守る意識の醸成を促進する。
						162	地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある中学３年生の割合（全国学力・学習状況調査）	%	34.5	76.9	40.0	192.3%	100.0%			

【事務事業評価】

歳出科目（R7決算）					担当部署	事業始期	事業終期	会計	事業概要(対象、手段、目的、成果)	活動指標の状況									決算・予算(千円)					事務事業の評価		関連施策指標NO
款	項	目	事業２名	事業３名						活動指標	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	R7実績	R7計画	R7達成率（%）	目標値（事業終期）	R3決算	R4決算	R5決算	R6決算	R7決算	評価	R7事務事業の評価の所見 指標の達成状況、事業費、施策貢献度などを加味した評価理由	
3	2	1	こども施策推進事業費	放課後子ども広場事業（重プロ）	子ども課	令和６年度	令和９年度	一般会計	対象 市内の子ども 手段 放課後子ども広場の展開 目的 子どもたちが成長に伴い、環境の変化に柔軟に対応しつつ、様々なことに主体的に関わることで、社会性や人間性を身に付け、社会とつながっていることを実感できるようになる。 成果 実施校区　５校区 委託型　　３校区（前原・南風・福吉） 補助金型　２校区（東風・加布里）	放課後子ども広場実施の校区	－	－	－	－	5	5	100.0	15	－	－	－	－	13,314	A	令和７年度より５校区で放課後子ども広場を実施、地域の実情に合わせて、開催方法や内容を変えている。 放課後の子どもの居場所のひとつとして、地域住民の見守りの中で安全・安心できる場を提供するとともに、多世代交流の促進の場としての役割も果たしている。	161
10	1	2	学力向上推進事業費	学力向上事業 ※放課後子ども広場事業「斜めの関係」講座の展開	学校教育課	令和３年度	令和７年度	一般会計	対象 市内の児童・生徒 手段 小学校高学年の児童、中学生、高校生、協定締結大学の学生、社会人が学びや交流を行い、関わり合う講座等を実施。 目的 身近な先輩や後輩と関わり合うことにより、社会性や人間性を身に付け、社会と関わる・つながる意識を高める。 成果 【令和７年度実績】 ・伊都塾、イングリッシュキャンプ等の事業の拡充・継続実施 ⇒伊都塾；2日間実施。延べ145人の中学生参加。 ⇒イングリッシュキャンプ；2日間実施。８人の中学生参加。 ・児童生徒を対象に市が大学等と実施した事業 ⇒九大寺子屋事業、九州大学国際村交流事業等	実施中学校の数	7	7	7	7	7	7	100.0	7	0	0	630	650	418	A	協定締結大学による中学生を対象とした講座により、身近な先輩、後輩との交流(斜めの関係)の場となっており、「社会と関わる・つながる力」の育成に寄与している。	161